

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	2024 年度国際関係学部日本語教員養成課程における日本語教育実習について				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	酒井 彩
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	酒井 彩

講演題目
2024 年度国際関係学部日本語教員養成課程の日本語教育実習と実習による実習生の学び

研究の目的、成果及び今後の展望

本報告は、2024 年度静岡県立大学国際関係学部日本語教員養成課程の前期科目「日本語教育実践研究」の授業内容と日本語教育実習による実習生の学びをまとめたものである。

文化審議会国語分科会『日本語教育の養成・研修の在り方について（報告）改訂版』（平成 31 年 3 月）では、教育実習の指導項目として、オリエンテーション、授業見学、授業準備、模擬授業、教壇実習、教育実習全体の振り返りの 6 項目を含めることとしている。これに従い、当該科目の内容は、(1)学内における講義や演習等、(2)学外の教育実習に大きく分けられる。

(1) 学内の講義や演習等の内容は、オリエンテーション、実習校の選択と理解、模擬授業、授業準備、教育実習全体の振り返り、報告書の作成である。学外の教育実習の内容は、実習機関によって異なるが、文化審議会国語分科会の報告に準じ、授業見学及び振り返り、授業準備、教案作成、教材準備、教壇実習及び振り返りを依頼している。

また、実習機関の教育理念等に照らし、学習者に対する評価、テストや課題等の作成なども行う。今年度は、静岡日本語教育センター、A.C.C 国際交流学園、エスコラ・オブジェチーボ・デ・イワタ、静岡インターナショナルスクールにお世話になった。

実習終了後、実習生 5 名全員で教育実習全体の振り返りを行い、実習による学びについて KJ 法で整理したところ、右に示すように大きく分けて「教師を取り巻く実態」「生徒」「授業準備の学び」「教師としてのコミュニケーション」（複数回答）という学びが得られた。

実習生には、実習の経験を活かし、大学卒業後の社会人への新しい一歩を踏み出してほしい。たとえ今すぐに日本語教師とはならなくても、いつの日か日本語教育の場へ私たちの仲間として戻ってきてくれることを期待する。

